

## 香川方言の命令表現

白石 有紗

(南・西アジア課程 ウルドゥー語専攻)

キーワード: 香川方言、命令表現、「マイ」、動詞命令形

### 0. はじめに

香川方言には、「マイ」という形式を動詞のあとに用いて、聞き手に行為を要求することがある。例えば、「ヨソミセント シャンシャン アルキマイ(よそ見しないでさっさと歩きなさい: 筆者作例)」のように言う。香川方言は、アクセントや語彙に関しては盛んに研究されているが、文法に関する研究は概説書等で簡潔に整理されている程度であり、体系的に記述された文書は管見の及ぶ限り存在しない。したがって本稿は、香川方言の命令表現形式を抽出し、意味・用法の観点から各形式間の相互関係を明らかにすることを目的とする。なお、本稿では特に断りのない限り、共通語をひらがなで、方言をカタカナで表記することとする。筆者は香川県高松市に生まれ、18歳までを同市内で過ごした香川方言母語話者である。

まず、香川方言と命令表現について本稿の立場を述べる。

#### 0. 1. 香川方言

香川県は、徳島・愛媛・岡山・大阪・広島などの各府県との交流により、これらの県と方言上類似した点が多い(国立国語研究所 2003: 15)。香川方言を語彙とアクセントから西・中・東・島嶼部の4区画に分類する場合もある(国立国語研究所 2003)。しかし、木野田(1982)では、「少数の特殊な語彙を除いては、全県的に同一の方言が用いられているとあってよい」と述べられている。本稿ではこの記述に従い、香川県内全域で使用されている方言について、特に区別なく香川方言とみなす。

#### 0. 2. 命令表現

命令表現は「発話・伝達のモダリティ」のうち、「働き掛け」のモダリティに属する(仁田 1989: 2-5 要約)。本稿では、この「働き掛け」のモダリティのうち「命令」を中心に扱う。しかし、「発話・伝達のモダリティ」の中でも命令・誘い掛け・依頼といった表現は、話し手の心情や場面の状況などの要因によって、相互に乗り入れが起こることもしばしばある。

したがって本稿では、必要に応じて誘い掛け・依頼等の表現にも触れながら記述していく。なお、終助詞を伴った形については、本稿の主題ではないため簡潔に述べるにとどめる。

## 1. 先行研究

### 1.1. 香川方言の命令表現

本節では、先行研究や辞書の記述を要約して、香川方言の命令表現形式を整理する。  
まず、動詞命令形について脇田(1938)と篠木(1992)の記述を以下に要約・引用する。

香川方言の動詞の命令形は、動詞の未然形のまま、もしくは動詞の未然形に終助詞のヨをつけて言うことが多い。「来る」の命令形は「コイ」とも言うが、主に女性が「コー」を使う。四段活用動詞は、「書ケ」、「押セ」などといって共通語と同じである。

〈例〉 コー(来い)、セー／セーヨ(しろ／しろよ)、オキー／オキーヨ(起きろ／起きろよ)

(脇田 1938: 63, 65-69 を要約)

命令形は動詞の連用形による表現と、動詞の命令形による表現とがあるが、一段活用動詞の場合は、連用形による表現が優勢である。 〈例〉 イケ(行け)、セ(しろ)、オキ(起きろ)、ネ(寝ろ)

(篠木 1992: 251)

つまり、動詞の命令形には、動詞の活用によって以下のように異なる形式が存在する。

- ・ カ変動詞: 共通語の命令形と同じ形、未然形のままの形(2種類)
- ・ サ変動詞: 打消しの未然形
- ・ 一段動詞: 未然形／連用形<sup>1</sup>
- ・ 四段動詞: 共通語と同じ命令形

次に、「マイ」を用いた命令表現について述べる。

香川方言について概説した木野田(1982: 391)では、命令表現の項で「命令表現には、動詞連用形にマイ・マーセの接続した形がある」と述べている。マイ・マーセの意味と用法に関して、香川方言の辞典である近石(1976)の記述を以下に要約する。

香川方言には丁寧の助動詞「ます」を意味する「マース」がある。「マース」の命令形「マーセ」は共通語の「なさい」を意味し、「マーセ」のほうが「マイ」より丁寧である。「マイ」は地域によって「マイナ」(東讃)、「マイヨ」(東・中讃)、「マイダー」(東讃)、「マエ」(全域)、「マヘ」(西讃)ともいわれる。

「チョット キマーセ」(ちょっと来なさい)

「ゴハン タベテイキマイ」(ご飯食べていきなさい)

「ハヨ シマイダー」(早くしなさいよー)

(近石 1976: 617-618 を要約)

<sup>1</sup> 一段動詞については、未然形と連用形が同形であるため、本稿では「未然形／連用形」と表記する。

筆者の内省では、「マイ」は「なさい」という意味を表す場合だけでなく、勧誘などにも広く使用できる。「マイ」の機能については、調査を踏まえて3節以降で詳述する。なお、「マイナ」、「マイヨ」、「マイダー」、「マエ」、「マヘ」は、「マイ」が終助詞を伴ったもの、もしくは音変化を経たものとみて、以下ではすべて「マイ」で代表させることとする。

## 1.2. 共通語の命令表現

共通語では、動詞命令形「しろ」と丁寧形の「しなさい」によって、実行命令・努力命令・試みに・非難・叱責等の命令を表現する(日本語記述文法研究会編 2003: 67-70 要約)。「しろ」、「しなさい」以外にも、否定疑問文の形をした命令や、「しよう」のように意志・推奨の形をしていながら、はっきりした意志を示せない聞き手に視点を同一化しようとして使用する命令表現がある(仁田他編 2002: 30)。

香川方言でも、先行研究で述べられている形式以外に、このような種類の命令表現形式が存在すると筆者は考える。よって、動詞命令形の形式を改めて香川方言話者<sup>2</sup>に確認するため、調査を行った。

## 2. 動詞命令形に関する調査

2010年11月8日～10日にかけて、香川方言の動詞命令形を確認するため、80～84歳の男女4名(男1/女3)の香川方言話者に対して面接調査を行った。なお、調査の際、2名ずつが同席していたため、互いに影響を及ぼした可能性がある。今回の調査では、筆者があらかじめ用意しておいた動詞<sup>3</sup>(「クル(来る)」「スル(する)」「ミル(見る)」「オキル(起きる)」「シラベル(調べる)」「イク(行く)」「ダス(出す)」「ノイトク(どいている)」の8つ)について、以下の3つの質問をした。

- ・ 設問1: 「否定するときに何と言うか」(打消しの「ン」を伴った場合の未然形)
- ・ 設問2: 「自分の予定を話すときに何と言うか」(意志・推奨の未然形+ウ・ヨウ)
- ・ 設問3: 「相手に命令するときに何と言うか」

### 2.1. 結果

紙幅の都合上、本稿では詳細な調査結果の記述は割愛し、結論のみを記す。先行研究の記述とは異なる結果には下線を付した。

- ・ サ変動詞には、〈打消しの未然形〉と同じ形の命令形が存在する。
- ・ カ変動詞以外の動詞には、〈意志・推奨の未然形+ウ・ヨウ〉の形の命令形が存在する。
- ・ 一段活用動詞の一部で〈未然形/連用形〉の形が使用できる。
- ・ 四段活用動詞には、〈共通語と同じ命令形〉が使用されない。
- ・ すべての動詞について、〈連用形+マイ〉の形が使用できる。

<sup>2</sup> 香川県高松市で生まれ育ち、県外滞在年数が4年以内の者を対象にした。

<sup>3</sup> 後述する本調査に使用した例文と共通する動詞。

## 2.2. 考察

今回の調査では、先行研究とは異なる結果が得られた。また、筆者は2010年8月にも、80歳と82歳の香川方言話者の女性2名に「早く起きろ」という文を香川方言に翻訳してもらおうという調査を行った。その際、〈連用形+マイ〉と〈意志・推奨の未然形+ウ・ヨウ〉に加え、「ハヨ オキンカイ」のような〈否定疑問文〉の形も使用された。同時に、「マーセ」は近年使用されなくなっていることも確認した。これらのことと先行研究および動詞命令形に関する調査の結果によって、各動詞の命令形が明らかになった。その詳細については本調査を踏まえ、3.3節にまとめて記述する。

## 3. 本調査

動詞命令形の形式とその他の命令表現形式について、その意味・用法ごとの使い分けを明らかにするため、調査を実施した。卒業論文では各形式間の「きびしさ」の序列についても調査・記述したが、本稿では紙幅の都合上記述を省略する。

### 3.1. 高齢層に対する調査

動詞命令形に関する調査を行った直後、同じインフォーマントに対して、更に面接調査を実施した。まず、筆者があらかじめ作成しておいた共通語の例文(1)～(8)とその状況設定を読み上げ、インフォーマントに香川方言に翻訳してもらった。その後、これまでの調査で抽出された形式にならって作成しておいた選択肢について、それらを使用するかどうか確認した。例文のうち、(2)、(3)、(5)は筆者作例であり、それ以外は日本語記述文法研究会(2003)の例文を参考に筆者が作成した(表1参照)。

### 3.2. 中年層・若年層に対する調査

2010年12月22日～30日にかけて、40～52歳の男女2名ずつと、23歳の男女2名ずつの計8名の香川方言話者に対し、1人ずつ個別に面接調査を実施した。老年層への調査に用いた例文(1)～(8)に加え、例文(9)と(10)も使用した。これらは、老年層に対する調査では確認できなかった「クル」と「スル」の命令形を抽出する目的で、筆者が作成したものである。調査で使用した例文を意味・用法別に対応させ、表1に示す。

表 1: 命令表現の意味・用法と例文番号の対応表

意味と用法	例文番号	筆者が用意した共通語の例文
実行命令	(1)	いつまでもぐずぐず寝ている子供に「早く <u>起きろ</u> 。」
勧めの機能を含む実行命令	(2)	朝、曇り空を見て「今日は雨が降りそうだから傘を持って <u>行きなさい</u> 。」
実行命令	(3)	庭師のまわりで遊んでいる子供に「邪魔になるから、そこを <u>どいてなさい</u> 。」
実行命令	(9)	子供に真剣な話をするため呼びつけるとき「ちょっと <u>来い</u> 。」
実行命令	(10)	電車で騒いでいる子供に対して「静かに <u>しなさい</u> 。」
努力命令	(4)	ゴール手前でへばっている親しい友人に「おーい、元気を <u>出せ</u> 。」
何かが分かるようになる	(5)	宿題を持ってきた子供に「わからないことは、自分で徹底的に調べて <u>みなさい</u> 。」
試みに	(6)	おいしい食べ物を遠慮している子供に「これ <u>食べてごらん</u> よ、おいしいから。」
仮定	(7)	危険な場所へ旅行に出るといふ親しい友人に「あんたにもしものことがあつて <u>みる</u> 。お母さんがどんなに悲しむか。」
叱責・非難	(8)	いつまでも外で遊んでいる子供に「いつまで遊んでいるんだ。早く家に帰らないか！」

### 3.3. 調査結果・考察

本調査の結果、新たに3つの形式が抽出された。

〈連用形+ナ〉 (1)′ 「ハヨ オキナ」(中・若年層の回答より)

〈連用形音便化〉 (6)′ 「コレ タベテン、オイシイケン」(中・若年層の回答より)

〈動詞テ形+ゴー〉 (6)″ 「コレ タベテゴー、オイシイケン」(若年層の回答より)

ただし、〈動詞テ形+ゴー〉は、若年層のインフォーマントが自分の祖父母が使用していたものとして回答したものであり、自分で使用する形として回答した人はいなかった。

各形式が使用された例文の番号を、年代別に分けて表2に示す。本調査においてどの例文でも使用されなかった場合は「—」、すべての例文で使用された場合は「すべて」と表す。なお、使用可能な動詞が限られている場合は、形式の欄に( )で示す。

表 2: 年代別にみた各形式が使用された例文

形式	高齢層	中年層	若年層
打消しの未然形(サ変)	—	(10)	(10)
意志・推奨の未然形+ウ・ヨウ	(1)(2)(3)(8)	(1)(2)(3)(4)(5)(6)(8)(9)(10)	(1)(4)(5)(6)(8)(9)(10)
未然形/連用形(一段)	(1)(5)(6)(7)	(1)(5)(6)(7)	(1)(5)(6)(7)
連用形(四段・サ変・カ変)	—	(2)(3)	(2)(3)(4)(8)(9)(10)
共通語と同じ命令形	(4)(8)	すべて	(1)(3)(4)(8)
連用形+マイ	(1)(2)(3)(4)(5)(6) (7)(8)	すべて	すべて
連用形+ナ	—	(1)(2)(5)(6)(8)	(1)(2)(3)(4)(6)
連用形音便化	—	(6)	(6)(7)
動詞テ形+ゴ	—	—	—
否定疑問文	(1)(2)(3)(4)(8)	(1)(2)(3)(4)(8)(9)(10)	(1)(2)(3)(4)(5)(8)(9)(10)

〈打消しの未然形〉(10)「シズカニ セー」(中・若年層の回答より)

この形式は、サ変動詞「スル」に限って「セー」という形で使用できる。やや男性的な表現として、実行命令の用法で使用された。

〈意志・推奨の未然形+ウ・ヨウ〉(1)「ハヨ オキヨー」(高・中・若年層の回答より)

この形式は、すべての動詞で使用できる。特に高齢層では、文脈から明らかに命令であることがわかる例文でのみ使用された。小さい子供に対してだけでなく、大人に対しても使用できる。

〈未然形/連用形〉(5)「ワカランコトハ、ジブンデ ヨーニ シラベテミー」(中・若年層の回答より)

この形式は、一段動詞でのみ使用できる。「何か分かるようになる」と「試みに」という意味を持つ用法はもちろん、実行命令の文でも使用された。

〈連用形〉(10)「シズカニ シー」(若年層の回答より)

この形式は、四段動詞・サ変動詞・カ変動詞に限って使用できる。また、高齢層では使用されなかったが、中年層では実行命令の用法でのみ使用され、若年層では実行命令と努力命令の用法で使用された。

〈共通語と同じ命令形〉(4)「オーイ、ゲンキ ダセ」(高・中・若年層の回答より)

この形式は、すべての動詞に使用できる。中年層を中心に、今回調査したすべての意味・用法で使用可能である。しかし、男性的な感じがするとして、高齢層と若年層の女性はほとんど使用しなかった。また若年層では、この形式を使い始めるが、方言というよりは共通語という認識が強い、という意見が目立った。

〈連用形+マイ〉(2)「キョウハ アメガフルゲナケン、カサ モッテイキマイ」(高・中・若年層の回答より)

この形式は、すべての年齢層において最も幅広い意味・用法で使用された。女性的な表

現であるとして、男性はあまり使用しなかった。西讃出身者はこの形を使用しなかった。

〈連用形+ナ〉(1)「ハヨ オキナ」(中・若年層の回答より)

この形式は、中年層と若年層に対する調査で初めて現れた形式である。仮定と非難・叱責以外の用法で使用された。共通語の「しな」という命令表現の影響を受けたものと考えられるが、この形式については更に研究が必要である。

〈連用形音便化〉(6)「コレ タベテン、オイシイケン」(中・若年層の回答より)

この形式は、中年層と若年層に対する調査で初めて現れた形式である。特に若年層では、勧めの用法でこの形式が頻繁に使われた。

〈動詞テ形+ゴー〉(6)「コレ タベテゴー、オイシイケン」(若年層の回答より)

「試みに」という用法の回答中に、観音寺市(西讃)出身者が挙げた形である。「てごらん」の「らん」が省略された形であると考えられる。

〈否定疑問文〉(8)「イツマデ アソッビョンヤ、ハヨ イエ カエランカイ」(高・中・若年層の回答より)

この形式はすべての動詞で使用できる。共通語では、非難・叱責の用法でのみ使用される形式であるが、香川方言においては特に非難・叱責の意味をもたない文でも使用される。

#### 4. まとめと今後の課題

香川方言の命令表現は、〈連用形+マイ〉が最も広い意味・用法で使用されている。女性的であるという特徴から、あまり親しくない相手や、年上に対して用いると丁寧な表現になり、親しい相手や年下の相手に対して用いると、後末を和らげる役割を果たす。〈意志・推奨の未然形+ウ・ヨウ〉は共通語よりも広い意味・用法で使用され、使用可能な聞き手の年齢層も小さい子供から大人まで幅広い。また、中年層と若年層では、〈連用形+マイ〉よりも〈連用形〉、〈連用形+ナ〉、〈連用形音便化〉が頻繁に使用される傾向にある。〈共通語と同じ命令形〉と〈否定疑問文〉はどちらも広い意味・用法で使用可能であるが、〈共通語と同じ命令形〉のほうが男性的な印象があり、使用頻度は低い。

一段動詞の「オキー」や「ミー」といった命令形について、筆者は〈未然形/連用形〉として記述した。本調査では、この形式と四段動詞・サ変動詞・カ変動詞の〈連用形〉とが相互補完してすべての意味・用法を表すことができた。さらに、近隣の方言では連用形による命令表現が女性を中心としてごく一般的に使用されている。ゆえに、〈未然形/連用形〉と〈連用形〉は一括して〈連用形〉として整理できると筆者は考える。

0.1 節で、香川方言について木野田(1982)の「少数の特殊な語彙を除いては、全県的に同一の方言が用いられているとあってよい」という記述に従うこととした。しかし、筆者が行った一連の調査では、西讃出身者は「マイ」を使用せずほかの地域出身の母語話者が挙げていない、〈動詞テ形+ゴー〉という形式を挙げた。このことから、命令表現形式について「全県的に同一」とは言えず、今後は地域差を考慮して研究を進めなければならない。

今回は少人数への面接調査であったので、形式ごとに細かく意味の違いを聞くことはできなかったが、男女差や年齢差を明確に記述するには至らなかった。今後は香川県内の様々な地点で、あらゆる世代から満遍なくデータを収集し、各形式間の相互関係をより明確にする

とともに、地域・性別・年代といった視点から社会言語学的分析も行っていく必要がある。

#### 参考文献

- 木野田れい子(1982)「香川県の方言」飯豊毅一・佐藤亮一・日野資純編『講座方言学 8 中国・四国地方の方言』367-392 東京: 国書刊行会
- 国立国語研究所編(2003)『全国方言談話データベース 日本のふるさとことば集成 第16巻 香川・徳島』東京: 国書刊行会
- 篠木れい子(1992)「香川県方言」平山輝男編『現代日本語方言大辞典 第1巻』248-252 東京: 明治書院
- 近石泰秋(1976)『香川県方言辞典』東京: 風間書房
- 仁田義雄(1989)「現代日本語文のモダリティの体系と構造」仁田義雄・益岡隆志編『日本語のモダリティ』1-56 東京: くろしお出版
- 仁田義雄・益岡隆志・田窪行則編(2002)『新日本語文法選書4 モダリティ』東京: くろしお出版
- 日本語記述文法研究会編(2003)『現代日本語文法4 第8部 モダリティ』東京: くろしお出版
- 脇田順一(1938)『讃岐方言の研究』東京: 国書刊行会